

# 日本学術会議 北海道地区会議ニュース

発行 日本学術会議北海道地区会議

No. 55  
2025-3



## 「法人化問題の山場を迎える日本学術会議」

第26期北海道地区会議代表幹事  
(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

宇山 智彦

2020年末以来続けられてきた日本学術会議の「在り方」をめぐる議論は、山場を迎えつつあります。2023年12月22日に、日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の中間報告と、内閣府特命担当大臣決定「日本学術会議の法人化に向けて」が出されたのち、有識者懇談会と2つのワーキング・グループで、法人化に向けた議論が進められました。これに対し学術会議は、自由で民主的な国家のナショナルアカデミーが満たすべき諸要件に照らして、法人化案には懸念点が多いことを繰り返し指摘しました。

学術会議の執行部は、諸外国のアカデミーに関する調査などに基づく多くの資料を有識者懇談会に提出し、粘り強く意見を述べました。2024年7月29日には光石衛会長が、法人化をめぐる議論の中でも特に次の5項目は、自由な学術の営みを代表するアカデミーの活動を阻害するもので到底受け入れられず、これらに関しての懸念が十分に払拭されずに取りまとめが行われる場合には、「日本学術会議として重大な決意をせざるを得ない」と表明しました。

1. 大臣任命の監事の設置を法定すること
2. 大臣任命の評価委員会の設置を法定すること
3. 「中期目標・中期計画」を法定すること
4. 次期以降の会員の選考に特別な方法を導入すること
5. 選考助言委員会の設置を法定すること

有識者懇談会はさらなる議論を経て、2024年12月20日に最終報告書を発表しました。そこでは、細部において学術会議への歩み寄りが少なからず見られ

ましたが、上記の5つの懸念点は、基本的に解消されませんでした。

12月22日の学術会議の臨時総会では、有識者懇談会の報告書を厳しく評価し重大な懸念を表す発言が多数出ましたが、有識者懇談会の意見を受け止め、妥協点を見出して前に進むべきだとの発言もありました。最後は、報告書には評価できる部分と残念な部分があるが、具体的な法制化に向けて責任を持って政府と協議していく、という会長の発言で締めくくられました。メディアでは、学術会議が法人化の政府方針を大筋で容認した、といった報道がなされましたが、これは一面的と言わざるを得ません。

その後、新しい「日本学術会議法」案の作成が政府部内で急速に進められ、2025年3月7日に閣議決定されました。これは現行法を廃止する新法であり、設置される予定の法人の種類は特殊法人であることが明らかになりました。内容的には有識者懇談会による歩み寄りを取り消した部分があるほか、内閣総理大臣による包括的な検査・是正要求の権限、一般会員にも及ぶ秘密保持や賠償の責任・罰則など、学術会議を独立行政法人よりも強く政府の監督下に置き、現在のような独立性を失わせる仕組みが示されています。

今後は、国会でさまざまな問題が十分に審議されることが重要であり、そのためには研究者を含む多くの国民に関心を持っていただく必要があります。有識者懇談会では、学術会議を欧米のアカデミーのあり方に近づけるべきだと言われる一方で、政府が管轄する法人についての日本の制度が当然の前提であるかのように、学術会議の制度設計が議論されました。国立大学をはじめ、日本の国家機関の法人化は、実質的な独立性ではなく業務の効率性の強化のために行われてきました。現在計画されている学術会議法人化では、これまでの学術会議にも先進国のアカデミーにもないような、政府・外部からの監督の仕組みが作られようとしています。これが、学術

政策や学術と社会のあり方の関係についてセカンド  
オピニオンを出す学術会議の役割、ひいては日本の  
学問の自由にどう影響するのか、多くの人に深く考  
えていただきたいと思います。

法人化問題以外でも、雑誌『学術の動向』の刊行  
や地区会議学術講演会の後援などで多くの役割を果

たしてきた公益財団法人日本学術協力財団が今年度  
末に解散するなど、学術会議をめぐる状況は厳しさを  
増しています。そのような中でも、学術会議はア  
クションプランに基づいて、さらなる役割発揮のため  
に努力を続けています。皆様のますますのご支援  
をお願いする次第です。

### 学術講演会開催報告

北海道地区会議では、市民公開の講演会を毎年開  
催しています。令和6年度は、11月17日（日）に、  
会場とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。

以下に、当日の講演内容を報告します。

#### 「北海道から多文化共生を考える」

日時：令和6年11月17日（日）

場所：北海道大学学術交流会館（札幌市）

報告：日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代  
表幹事（北海道大学スラブ・ユーラシア研究  
センター教授）

宇山 智彦

日本学術会議第三部会員

（北海道大学大学院情報科学研究院教授）

有村 博紀

世界的に国境を越えた人の往来が盛んになると同  
時に、歴史的に積み残されてきた先住民の権利確立  
の重要性も増している現在、多様な文化・言語・出  
自を持つあらゆる人々が、人権を守られながら共に  
生きる社会を作ることは、重要な課題となっています。  
北海道は、アイヌという先住民の存在、全国平均  
を上回る速さで少子高齢化が進む中での外国人就  
労者の受け入れ、多数の外国人観光客の訪問など、  
多文化共生に関して考えるべき問題が多い地域で  
す。この講演会では、先住民・マイノリティーと外  
国人に関わるさまざまなテーマを取り上げて、文化  
人類学からコンピュータ科学に至る多様な学問分野  
及び教育・医療・就労現場の視点から論じました。



司会進行：玉腰 暁子

（日本学術会議第二部会員、北海道大学  
大学院医学研究院教授）

#### (1) 開会挨拶

13:30~13:40 開会挨拶

三枝 信子（日本学術会議副会長・第三部会員、  
国立研究開発法人国立環境研究所地  
球システム領域領域長）

寶金 清博（日本学術会議連携会員・北海道大学  
総長）

宇山 智彦

#### (2) 講演

13:40~14:10 「マイノリティー女性と多文化共生」

石原 真衣（北海道大学アイヌ・先住民研究セン  
ター准教授）

14:10~14:40 「北海道における外国人労働者の  
受け入れと共生の課題」

宮入 隆（北海道学術大学経済学部教授）

14：40～15：10 「北海道における帰国子女・外国  
にルーツのある児童生徒の現状  
と未来への課題」

佐々木 ななみ（室蘭市立桜蘭中学校教諭）

15：20～15：50 「日本における医療アクセスの向  
上に向けた外国人患者との異文  
化コミュニケーションの促進」

フーマン・グーダルズィ（北海道大学大学院医学  
研究院准教授）

15：50～16：20 「コンピュータ科学で繋がる多様  
性社会：北海道から始まる新た  
な未来」

太田 香（室蘭工業大学大学院工学研究科教授・  
コンピュータ科学センター長）

(4) 総合討論

16：25～17：25

進行 宇山 智彦

コメント 大西 楠テア（日本学術会議連携会員、  
東京大学大学院法学政  
治学研究科教授）

パネリスト 石原 真衣、宮入 隆、佐々木 な  
なみ、フーマン・グーダルズィ、太  
田 香

(5) 閉会挨拶

17：25～17：30 有村 博紀

開会挨拶では、日本学術会議の三枝副会長、北海道大学の寶金総長、北海道地区会議の宇山代表幹事の3人が、それぞれ多文化共生についての深い問題意識を語りました。



挨拶をする三枝副会長



挨拶をする寶金総長



挨拶をする宇山代表幹事

最初の講演で石原先生は、日本はジェンダー平等において悪名高く、最も多文化主義から遠いとされているのに、誰もが安心して暮らす世界をどう創造

できるのか、という鋭い問いを突きつけました。特に先住民女性は、①圧倒的なジェンダー不平等（女性の疎外）、②国内における民族・人種的な多様性が把握されない社会（マイノリティー女性の疎外）、③先住民という存在が過去のものであると認識される構造（先住民女性の忘却と疎外）、という3つの疎外に取り巻かれています。ヘイトスピーチ・ヘイトクライムに関する法規制がなく、マイノリティーの人権に関する議論も低調な中で、多文化共生という概念もコスメティックな消費の対象にとどまりがちです。しかし先住民研究は国際的・学際的に展開しています。日本でも、マイノリティーが沈黙し、国勢調査にも反映されず、「透明人間」になっている状況を変えることこそが、社会全体を豊かで彩りあるものにつながるはずです。



講演をする石原准教授

2つ目の講演では宮入先生が、外国人労働者への依存を高める北海道の地域社会が、受け入れ制度の大きな転換の中でどのように共生社会を実現していくかという問いを立てました。技能実習から特定技能への転換は、メリットがあると同時に、転籍が可能になった中での人材育成、日本語教育に携わる人材の確保、日本側が負担する渡航費等の増加など、課題も生んでいます。特に日本語が分からない帯同家族が増え、過疎地にも現れうることへの対応を本格的に考える必要があります。また季節によって日本国内を移動する労働者が多いことも対応を複雑化させるので、複数分野をまたいで働ける制度にして道内での通年雇用を実現するという方法も考えられます。日本語教育や外国人支援をボランティアに頼らず、専門人材を育成して、北海道を外国人労働者に「選ばれ続ける地域」にすべきだと宮入先生は説きました。



講演をする宮入教授

3つ目の講演で佐々木先生は、北海道では日本語指導が必要な児童生徒が増加しているだけではなく、居住地域が散在化し、母語も多様化していることを指摘しました。文部科学省は、日本語指導を必要としている児童生徒が4名以上いることなどを条件に教員の加配措置を行っていますが、北海道ではそのような児童生徒が3名以下の学校が多いため、巡回型で日本語指導を行う難しさがあります。また、多くの場合日本語指導を担当するのは一般教諭であり、専門知識を持つ教員が非常に少ないという問題もあります。児童生徒一人一人に最適な学習方法を考えることも重要です。佐々木先生が教えたある生徒は、漢字や日本の学校文化に苦手意識がありましたが、アメリカでの差別に関係する事件を授業で扱った時には、自分の考えを積極的に話していたというエピソードが印象的でした。



講演をする佐々木教諭

4つ目の講演でゲーダルズィ先生（イラン出身）は、日本在住の外国人が言葉の壁を最も感じる場所は病院であるという調査結果や、外国人は慢性疾患による死亡率が高く、精神病やストレスに由来する

病気にもかかりやすいというデータを示しました。外国人居住者や観光客が増加する中、言語だけでなく文化・生活習慣の相違も、外国人患者と病院の双方に困難を生んでいます。グーダルズィ先生は、北海道大学医学部や日本の他の大学・病院における異文化コミュニケーションのためのトレーニング、特に医療英語の教育や個別学習の取り組みを紹介し、それらは学会や国際ジャーナルでも注目されているが、包括的な国家政策やリソースはまだ十分ではないと指摘しました。



講演をするグーダルズィ准教授

最後の講演で太田先生は、多文化共生とは何かについてのChatGPTの回答を紹介し、多文化共生には経済的発展、社会的調和、個人の成長に利点があると指摘しました。そのうえで、多文化共生を実現する際に課題となる言語の壁、文化的摩擦、制度的な支援不足といった問題をコンピュータ科学は解決できるのか、と問いました。課題解決の手段として期待の高い人工知能（AI）を扱う人材が深刻に不足している中で、「専門×情報」人材を育成する室蘭工業大学の取り組みが紹介されました。AIには極めて多方面に役立つ可能性がありますが、技術だけでは解決できない社会的・倫理的な課題も存在するため、技術の活用とともに人間同士の対話や政策的な取り組みも並行して進めることが重要だと太田先生は強調しました。



講演をする太田教授

総合討論では、日本学術会議多文化共生分科会の委員でもある大西先生がオンラインで、日本における多文化共生施策の歴史的展開や外国人集住都市会議の取り組みを紹介したのち、各講演の論点を掘り下げるコメントをしました。コメンテーターと報告者および他の参加者の間での議論では、マイノリティー集団の権利と個人の権利や言論の自由の関係、外国人教育における情報通信技術（ICT）の利用など多様な話題が取り上げられました。寶金総長も最後まで出席し、鋭い質問をしてくださいました。



総合討論の様子

講演会は、有村会員の閉会挨拶で幕を閉じました。



閉会挨拶をする有村教授

本講演会は、219名（うちオンライン154名）の方にご参加いただきました。参加者の中には多文化共生に関わる仕事をしている方も多く、アンケートでは、「喫緊の課題について、多方面からの報告・議論を聞くことができ、大変に有意義であった」、「それぞれの分野での取り組む姿勢を感じられたこと、またその内容が具体的な事例で理解できたことはとても良かった」、「自分の進む道に示唆をいただけました」など好評でした。また、参加されたジャーナリストによる本講演会の詳細なレポートが、『北方ジャーナル』2025年1月号に掲載されています。

なお、講演会に先立ち、三枝副会長を迎えて、北海道地区の会員・連携会員が参加する「科学者との懇談会」が開かれ、日本学術会議の現状と課題や、北海道の大学との関わりについて熱心な議論が交わされました。

## 令和6年度実施の地区事業（実施分）

### ○学術講演会

令和6年11月17日（日）

北海道大学学術交流会館（札幌市）

「北海道から多文化共生を考える」

参加者219名（うちオンライン参加154名）

### 概要

◇司会 玉腰 暁子

（日本学術会議第二部会員、北海道大学大学院医学研究院教授）

### ◇挨拶

三枝 信子

（日本学術会議副会長・第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長）

寶金 清博

（日本学術会議連携会員・北海道大学総長）

宇山 智彦

（日本学術会議第一部会員・北海道地区会議代表幹事、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

### ◇講演

「マイノリティー女性と多文化共生」

石原 真衣

（北海道大学アイヌ・先住民研究センター准教授）

「北海道における外国人労働者の受け入れと共生の課題」

宮入 隆

（北海学園大学経済学部教授）

「北海道における帰国子女・外国にルーツのある児童生徒の現状と未来への課題」

佐々木 ななみ

（室蘭市立桜蘭中学校教諭）

「日本における医療アクセスの向上に向けた外国人患者との異文化コミュニケーションの促進」

フーマン・グーダルズィ

（北海道大学大学院医学研究院准教授）

「コンピュータ科学で繋がる多様性社会：北海道から始まる新たな未来」

太田 香

（室蘭工業大学大学院工学研究科教授・コンピュータ科学センター長）

### ◇総合討論

進行 宇山 智彦

コメント 大西 楠テア

（日本学術会議連携会員、東京大学大学院法学政治学研究科教授）

パネリスト 石原 真衣、宮入 隆、佐々木 ななみ、フーマン・グーダルズィ、太田 香

## ◇挨拶

有村 博紀

(日本学術会議第三部会員・北海道大学大学院情報科学研究所教授)

## ○北海道地区会議サイエンスカフェ

令和7年3月13日(木)

三省堂書店札幌店ブックス&amp;カフェUCC

「火星の月から探る水惑星誕生の謎—火星衛星探査MMXの挑戦」

講師 倉本 圭

(日本学術会議第三部会員／北海道大学大学院理学研究所教授／JAXA宇宙科学研究所 特任教授(兼任))

## ○北海道地区会議運営協議会

①令和6年6月4日(火) 北海道大学(札幌市)

議題1 令和6年度日本学術会議北海道地区会議学術講演会について

議題2 日本学術会議サイエンスカフェの実施について

議題3 その他

②令和6年7月30日(火)(文書開催)

議題1 日本学術会議北海道地区会議学術講演会「北海道から多文化共生を考える」の開催について

③令和7年2月27日(木)(文書開催)

議題1 令和7年度事業計画について

報告1 令和6年度日本学術会議北海道地区会議事業実施報告について

## 第26期地区会議構成員

第26期北海道地区会議は会員および連携会員で構成されている。

## [会 員]

有村 博紀	第三部会員(北海道大学大学院情報科学研究所・教授)
宇山 智彦	第一部会員(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・教授)
河原純一郎	第一部会員(北海道大学大学院文学研究所・教授)
倉本 圭	第三部会員(北海道大学大学院理学研究所・教授)
玉腰 暁子	第二部会員(北海道大学大学院医学研究所・教授)
樋田 京子	第二部会員(北海道大学大学院歯学研究所・教授)
美馬のゆり	第三部会員(公立ほこだて未来大学システム情報科学部・教授)
渡辺 雅彦	第二部会員(北海道大学大学院医学研究所・特任教授)

## [連携会員]

網塚 浩	北海道大学大学院理学研究所・教授
石塚真由美	北海道大学大学院獣医学研究所・教授
泉 典洋	北海道大学大学院工学研究所・教授
上田 佳代	北海道大学大学院医学研究所・教授
白杵 勲	札幌学院大学人文学部人間科学科・教授
内山 幸子	東海大学国際文化学部地域創造学科・教授
大野 宗一	北海道大学大学院工学研究所・教授
大場 雄介	北海道大学大学院医学研究所・教授
岡部 聡	北海道大学大学院工学研究所・教授
小川美香子	北海道大学大学院薬学研究所・教授
尾崎 一郎	北海道大学大学院法学研究科・教授
片桐 由喜	小樽商科大学・教授
加藤 重広	北海道大学大学院文学研究所・教授
菊地 優	北海道大学大学院工学研究所・教授
北 裕幸	北海道大学大学院情報科学研究所・教授

- |        |                                               |       |                                    |
|--------|-----------------------------------------------|-------|------------------------------------|
| 後藤 貴文  | 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・教授                      | 南 雅文  | 北海道大学大学院薬学研究院・教授                   |
| 齊藤 正彰  | 北海道大学大学院法学研究科・教授                              | 見延庄士郎 | 北海道大学大学院理学研究院・教授                   |
| 櫻井 晃洋  | 札幌医科大学医学部遺伝医学・教授                              | 村井 祐一 | 北海道大学大学院工学研究院・教授                   |
| 迫田 義博  | 北海道大学大学院獣医学研究院・教授                             | 村上 正晃 | 北海道大学遺伝子病制御研究所長・教授                 |
| 笹木 敬司  | 北海道大学電子科学研究所・教授                               | 村越 敬  | 北海道大学大学院理学研究院・教授                   |
| 佐藤 典宏  | 北海道大学病院病院長補佐／臨床研究開発センター長・教授                   | 森本 淳子 | 北海道大学大学院農学研究院・准教授                  |
| 澤村 正也  | 北海道大学大学院理学研究院・教授                              | 山内 太郎 | 北海道大学大学院保健科学研究院・教授／環境健康科学研究教育センター長 |
| 信濃 卓郎  | 北海道大学大学院農学研究院・教授                              |       |                                    |
| 清水真理子  | 国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所寒地農業基盤研究グループ資源保全チーム・主任研究員 |       | (氏名は五十音順)                          |
| 相馬 雅代  | 北海道大学大学院理学研究院・准教授                             |       |                                    |
| 高橋 素子  | 札幌医科大学医学部医化学講座・教授                             |       |                                    |
| 武富 紹信  | 北海道大学大学院医学研究院・教授                              |       |                                    |
| 田高 悦子  | 北海道大学大学院保健科学研究院・教授                            |       |                                    |
| 但野 茂   | 北海道大学大学院保健科学研究院・客員教授／北海道大学名誉教授                |       |                                    |
| 田中 伸哉  | 北海道大学大学院医学研究院・教授                              |       |                                    |
| 中小路久美代 | 公立はこだて未来大学システム情報科学部情報アーキテクチャ学科・教授             |       |                                    |
| 長野 克則  | 北海道大学大学院工学研究院・教授                              |       |                                    |
| 西野 吉則  | 北海道大学電子科学研究所・教授                               |       |                                    |
| 西村 正治  | 北海道呼吸器疾患研究所・理事長／豊水総合メディカルクリニック・医師／北海道大学名誉教授   |       |                                    |
| 庭山 聡美  | 室蘭工業大学大学院工学研究科しくみ解明系領域・教授                     |       |                                    |
| 野口 伸   | 北海道大学大学院農学研究院院長・教授                            |       |                                    |
| 橋本 雄一  | 北海道大学大学院文学研究院・教授                              |       |                                    |
| 長谷山美紀  | 北海道大学大学院情報科学研究院・教授                            |       |                                    |
| 波多野隆介  | 北海道大学名誉教授                                     |       |                                    |
| 平野 高司  | 北海道大学大学院農学研究院・教授                              |       |                                    |
| 藤田 修   | 北海道大学大学院工学研究院・教授                              |       |                                    |
| 藤田 知道  | 北海道大学大学院理学研究院・教授                              |       |                                    |
| 藤山 文乃  | 北海道大学大学院医学研究院・教授                              |       |                                    |
| 古屋 正人  | 北海道大学大学院理学研究院・教授                              |       |                                    |
| 寶金 清博  | 国立大学法人北海道大学総長                                 |       |                                    |
| 三浦 誠司  | 北海道大学大学院工学研究院・教授                              |       |                                    |

日本学術会議北海道地区会議事務局  
 北海道大学研究推進部研究振興企画課  
 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目  
 電話(011)706-2155 FAX(011)706-4873